市川中

見方・考え方を働かせながら、
自分の考えを広げ深める学習指導の在り方

～言語活動と振り返りの場の設定の工夫を通して～

（４年計画の４年次）

校長　　老久保　智

１　研究主題について

本校は、新学習指導要領において、学習内容を学ぶことで「何ができるようになるか」という視点を重視するとともに、「資質・能力」を育むための、各教科を学ぶ本質的な意義の中核をなすのが「見方・考え方」と捉え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んできた。４年計画の３年次である昨年度は、振り返りの場を効果的に取り入れたことが、①生徒がより良い表現方法を模索することにつながった、②理解が不十分なところを自覚し、復習する生徒が増えた、③教師の見取りや助言を元に、生徒が自分の学びを客観的にみることができたなどの成果があった。

一方で、「思考を広げ深める」ために、各教科でどのような取組をしているのか、授業の導入から課題設定までの教師の働きかけがどうなのかといったことに関して、全教員で共通理解が不十分だったことが課題として残った。

４年計画の４年次である今年度は、授業を相互に参観して授業研究会を行うことを通して授業改善に努め、生徒に身に付けさせたい「資質・能力」を育んでいく１年にしたいと考え、本主題を設定した。

２　研究のねらい

自分の考えを広げ深める学習指導の在り方を、各教科ごとに「見方・考え方」を働かせやすい学習課題や場面をどのように設定していくかを授業で工夫すること、言語活動を取り入れ論理的な思考場面を取り入れること、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を工夫して設けることを通して明らかにする。

３　研究仮説

(1)　各教科ごとに「見方・考え方」を働かせやすい学習課題や場面をどのように設定していくかを授業で工夫することと、言語活動を取り入れ論理的な思考場面を設定することで、知識・理解の質を高め資質・能力を育むことができる。

(2)　生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を工夫して設けることで、目標をもって学習に向かう姿勢や多面的、多角的にものごとを捉え考える力を養うことができる。

４　研究内容

(1)　各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせやすい学習課題を設定した授業を実践する。また、言語活動を取り入れ、論理的な思考場面を設定する。

(2)　授業の中に振り返りの場を設定し、「何ができるようになったか」を明確にし、次への意欲につなげるようにする。教科部会や他教科から得られた振り返りシートなどを参考に活用し、変容を見取る評価の方法を工夫する。

５　研究の経過

(1)研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要　等
４	１２	○全体会 ・校内研究についての説明 ・生徒に身に付けさせたい資質・能力についての話合い
７	５ ～ １４	○第１回授業研究 ・論理的教科グループ、言語教科グループ、技能教科グループに分かれて、授業参観。感想等のメモを提出。
１１	３０	○第２回授業研究 ・１年社会　授業者　山端　研人 題材名「なぜアフリカ州には国際的な支援が必要なのか」

(2)一般研修

月	日	内容・講師・概要等
6	7	○授業における ICT 活用ワークショップ 講師　山端研人教諭　　中村鴻作教諭
8	１８	○教育指導課・総合教育センター訪問の指導案の書き方に関する研修 ○特別活動、キャリア教育の研究授業の方向性についての意見交換
1	３１	○言語活動、振り返りの場の設定の工夫に関する情報交換

６　研究の成果

（１）授業のねらいに即した言語活動を取り入れることが、以下のことにつながった。

①課題を解決する際に話合い活動をすることで、生徒同士で考え方を共有、深化させることができ、知識・技能の定着につながった。

②授業の各場面でＩＣＴ機器を効果的に利用することを積み重ねてきた結果、調査活動、まとめ活動、振り返り活動など、生徒自身が主体的にＩＣＴ機器の使い方を選択して、効果的に言語活動を進めることができるようになった。

（２）振り返りの場を効果的に取り入れることが、以下のことにつながった。

①小テストや振り返りシートを組み合わせて活用することで、授業のねらいの達成に迫ることができた。

②生徒自身の振り返りが適切なものであるかどうかを教師がフィードバックすることで、生徒が自分の理解度を再認識することにつなげた。

③振り返りを積み重ねることで、生徒が身に付いた力を自覚できるようになり、別な単元や他教科、領域等の授業でその力を生かす姿が多く見られるようになった。

７　研究の課題

生徒の「読解力」が多くの教科で問題点として挙げられた。ある程度、読解力のある生徒は、ＩＣＴ機器等身の回りにあるものを活用して、学習に役立てている。一方で活用するために必要な知識の習得まで至らない下位生徒が一定数いる。４年間の取り組みを終えて、この「二極化」の解消を目指した授業改善の必要性を強く感じている。　　（記入者　菊池真樹子）